鈴木商店調査書「山陽製鉄株式会社」(原書 P100~105)

大阪市南区順慶町三丁目^{にじゅう}廿七番屋敷
設立 大正四年十二月^{にじゅう}廿四日
資本金 参拾萬円也 (三千株 普通株 三千株 優先株)
払込金 貳拾五萬円也
投資額 拾萬円内外

重役氏名

取締役社長	松田茂太郎	取締役	松島 誠
取締役	川合良男	取締役	依岡 ^{よりおか} 省輔
同	野島 ^{のり} 円次郎	同	長瀬大五郎
同	岩本定喜	監査役	福井源次郎
監査役	田宮嘉右衛門	同	黒田正暉

現況

同社は野島氏所有の^{ふたみ ひ}双三、比婆^{ひば}兩郡に^{またが}跨る山林^ま壱萬余町歩を買収し、雜木よりメチール、木^{もく}醋酸^{さくさん}等の採取を主とし、副業として山林に存在する^{てつまい}鉄滓を原料とせる^{せいせん}製銃業^{いと}を^{いとな}営まんとするものにして、同地付近に鈴木商店の経営せる木材^{かんりゅう}乾燥事業ありしかば、野島氏と交渉の結果、^と兎に^{かく}角会社を成立せしめたるにて、野島氏は山林何町歩を何程にて買収せしや尚明かならざるも、之に資本金を倍額参拾萬円に増資し、新株拾五萬円は優先株として一割二歩位の配当を最低限度となすべき事となせり。而して、現資本の内拾五萬円は単に^{その}該山林を評価し振替へたるものなり。

而して、^{しこう}乾燥^{かんりゅう}事業は今春より開始し、時^{あたか}恰も^{その}其製品たるメチール^{とうき}価格騰貴の折柄とて相当利益を挙げ、上半期決算は壱割の配当を為し得る由。又製銃業は目下原料^{しゅうしゅう}蒐^{しゅう}集中にて^{そのせいれん}近く其製鍊に着手する^{はげ}筈なるが、果して予定の結果を得べきや否や未定なるも、同地方にて既に着手せる中国製鉄会社の相当成績を挙げ居れるより見れば、同様の希望を^{しよく}囑すべし。

尚、現重役の^{かおぶれ}顔触を見るに、野島、長瀬、黒田の三氏を除くの外^{ほか}全部鈴木系の人にして、社長松田氏の如きは鈴木商店の顧問の地位にあり、松島氏は^{あずま}東^{ほか}レザ^{ほか}ーを主宰する外三重、伊勢、秋田等の各林業株式会社(木材乾燥より木^{もく}醋酸、アセトン、メチールを採取し木炭を販売するもの)は全部松島氏を中心として設立せられたり。

^{しか}然れば、山陽製鉄の事業^{その}其ものは果して有望なりや否や、今^{にわか}俄に^{ぎやくと}逆賭し難し。

同社の大正六年上半期決算左の如し

(単位：円)

資 産 之 部		負 債 之 部	
未払込株金	37,500.00	株金	300,000.00
山林及鉱区	150,000.00	未払金	7,500.00
機械建物什器	279,000.87	借入及支払手形	241,698.73
道路	4,126.06	当期利益金	16,114.00
水路	11,908.71		
受取手形	8,000.00		
工場勘定	62,713.71		
乾餾製品	7,317.27		
仕掛品	2,146.15		
銀行	2,599.96		
合計	565,312.73	合計	565,312.73

損益計算書

金 壹萬九千九百六拾七円九拾七銭	総収入金
〃 參千八百五拾參円九拾七銭	総損失金
差引 金 壹萬六千百拾四円	当期益金

金 壹千円 固定物償却金
再差引 金 壹萬五千百拾四円

右利益金分配左の如し

金 壹千円	法定積立金
同 八百五拾円	賞与金及共済会寄付金
同 八千四百參拾七円五拾銭 (年一割五分)	優先株配当金
同 參千七百五拾円 (五分)	普通株配当金
金 壹千七拾六円五拾銭	後期繰越金